

## 討議型道徳授業に関する研究

— 郷土愛を学ぶ高校道徳授業 —

小川 哲哉\*・渡邊 英一\*\*・岩瀬 美江\*\*\*

(2016年10月28日受理)

Study of Discussion-based Moral Lessons: High School Moral Lessons to Learn Love for One's Hometown

Tetsuya OGAWA, Eiichi WATANABE and Mie IWASE

キーワード: 高校道徳, 郷土愛, 討議活動

茨城県の高等学校第1学年における「道徳」の取組は10年目を迎え、教育現場からは充実した教育成果が報告されてきている。さらに平成28年度からは第2学年で「道徳プラス」が実施されている。道徳プラスは、ホームルーム活動の時間に月1回年10回実施され、道徳的判断力や道徳的実践意欲と態度を身に付け、集団や社会の一員としての自覚をもった生徒の育成を目指すものである。その具体的内容は、合意形成を目指す討議型の道徳授業を5回、モラルスキルトレーニング協働型の道徳授業を5回行うことである。その中でも討議型の道徳授業は、話し合い活動を通して生徒の道徳的判断力を育成させるために、集団を形成する一人一人が自分の意見を表明しながら相互コミュニケーションを図り、最終的にクラス全体での合意形成を図る点に特徴がある。学術的に見れば、問題を発見し解決を図る学習(J. デューイ)、相互理解を図るコミュニケーション活動(J. ハーバーマス)、共通理解へと導かれる対話活動(Win・Win対話型)等の理論に基づいて、合意形成を目指す話し合い活動である。本研究では、討議型の道徳授業の郷土愛に関する資料「お祭り」を取り上げ、その授業実践を通して高校生が郷土のお祭りの存続について考え、話し合い活動の教育的意義を確認し、討議型の道徳教育活動の有効性を検証した。

### 問題の所在

周知のごとく高等学校には道徳の時間がないため、「学校の教育活動全体を通じて行うこと」になっている(文部科学省(2009). 15頁)。その意味で総合的な学習の時間を使って年間35単位時間の道徳授業を実施している茨城県の取り組みは注目に値する。しかもこうした取り組みは今年で10年目を迎えることになった。導入された最初の時期は、教員の間にも「道徳」の実践において大き

---

\*茨城大学教育学部 \*\*茨城県教育庁 \*\*\*茨城県立鹿島高等学校

な戸惑いと不安があり、県教育委員会における教員の研修内容も、「道徳」の授業の展開例や教材研究の方法などが中心であったが、平成25年度からは、小・中学校の道徳推進教師の立場の教員に該当する「豊かな心育成コーディネーター」（茨城県教育委員会（2012）. 29頁）を対象とする研修会に重点をおき、教育理論と実践スキルに対する検討を進めている。ただ、そのような理論的研究と実践的スキルの積み重ねのなかでいくつかの課題も見えてきた。

例えば、平成25年度の生徒対象の調査結果（茨城県教育委員会ホームページに掲載）において、「相手の意見や考えをよく聞くようになってきたと回答した生徒」は86.9%という高い数値を示しているが、「自分の意見や考えをまとめ発言できるようになってきた」という設問に対して、約4割の生徒が自信を持っていないという回答をしており、相手の話はよく聞くことはできるが、自分の考えを相手に伝えること自信がということ。さらに、「礼儀や思いやりなど、他の人とのかかわりについてじっくりと考えるようになった」という設問に対して、8割を超える生徒が肯定的な回答（「そう思う」が32.6%、「ややそう思う」が54.1%）をしているが、「道徳的には正しい行いが分かっている、実際に行動に移せないことがある」という設問に対して、8割を超える生徒が肯定的な回答（「そう思う」が26.9%、「ややそう思う」が54.1%）があった。

この、「相手の話はよく聞けるが、自分の意見を伝えることに自信がない」と「道徳的には正しい行いが分かっている、実際に行動に移せないことがある」という二つの課題に対応するため、平成28年度から「道徳プラス」という名称の道徳の時間を、全県立高等学校の第2学年へ拡充することとし準備を進めてきた。平成26年度には、教材案の作成を行い、平成27年度に研究指定校10校で実証研究を行うとともに、各校の豊かな心育成コーディネーターなどを対象とした10回の研修を実施してきた。

冒頭でも触れたように茨城県の高校第1学年の「道徳」は、総合的な学習の時間に位置づけられており、県作成の生徒用テキスト（茨城県教育委員会（2015）.）を中心に授業を展開している。小中学校の道徳と継続性を重視し、県独自に内容項目を設定し道徳的価値の自覚が図れるよう取り組んできた。第2学年の「道徳プラス」は、ホームルーム活動の時間に月1回年10回実施し、道徳的判断力や道徳的実践意欲と態度を身に付け、集団や社会の一員としての自覚をもった生徒の育成を目指している。「道徳プラス」では、合意形成を目指す討議型の道徳授業を5回、モラルスキルトレーニング協働型の道徳授業を5回行うことになっている。その中でも討議型の道徳授業は、話し合い活動を通して生徒の道徳的判断力を育成させるために、集団を形成する一人一人が自分の意見を表明しながら相互コミュニケーションを図り、最終的に合意形成を目指すものであり、よりよい社会の実現を目指すものである。そのためには、問題を発見し解決を図る学習（J. デューイ）、相互理解を図るコミュニケーション活動（J. ハーバーマス）、共通理解へと導かれる対話活動（Win・Win 対話型）等の理論に基づいて、合意形成を目指す話し合い活動が重要となる。そこで本研究においては、討議型の道徳授業の郷土愛に関する資料「お祭り」を取り上げ、その授業実践を通して、高校生が郷土のお祭りの存続について考え、討議し合うことで「話し合い活動」の教育的意義を確認し、討議型の道徳教育活動の有効性を検証してみたい。自己の主張を提示し、他者の意見を受け入れながら話し合い、互いの意見交換を通して「合意形成」を果たしていくことにはどのような教育的意義があるのだろうか。こうした道徳教育的諸課題について考えたい（尚、本論文では、「問題の所在」と「結語的考察」を小川が、「郷土愛と考える高校道徳授業実践を渡邊と岩瀬が執筆した）。

## 郷土愛を考える高校道徳授業実践

### (1) 授業の趣旨と指導案について

この授業実践では、茨城県教育委員会の教材「道徳プラス」を使って郷土愛を討議する授業を実践した。資料の内容は以下の通りである（茨城県教育委員会（2016b）、20～21頁）。

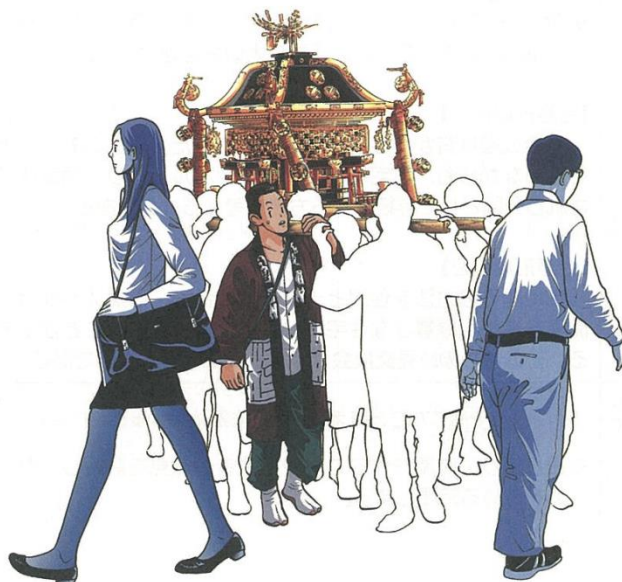
#### 【資料：お祭り】

##### 資料

一郎はA町に住んでいる高校生である。生まれてからずっとこのA町に住んでいる。A町は首都圏郊外に位置し、自然も豊かでとても住みやすく、一郎の大好きな町である。A町が大好きな理由の一つにこの町のお祭りがある。A町のお祭りは伝統行事で長い間町民に親しまれてきた。

そんなA町にもここ数年マンションや新築の住宅街が立ち並ぶようになり、新しい人が多数入ってきている。現在では知っている人ばかりではなく、通りすがりの人にもあいさつすらなくなっている。自治会や町内会にも、最近入居してきた新住民たちの積極的な参加は少なくなっていた。日曜日等の公園の清掃活動にも家の都合で参加しない住民も多い。そのためA町の人間関係が希薄になりつつあり、長い歴史と伝統あるお祭りに関心がない町民が増えてきた。また、町会費も集まらずお祭り自体の運営が難しくなりつつある。

そして、ついにお祭りをなくそうという声も、旧住民たちから上がった。一郎としては大好きなA町のお祭りがなくなるとは寂しいし、できれば新しく町民になった人たちにも参加して欲しいと思っている。伝統的なお祭りを存続するために、一郎をはじめとする古くからの旧住民は新住民に今後どのようなはたらきかけをすれば良いだろうか。



この教材を使った学習指導案は以下の通りである。

本県では1年次に週1で展開する「道徳」で義務教育から育んできた道徳的心情を醸成させる。しかし、社会にでる準備段階にある高校生には、社会生活や日常生活により関連のある事項について考え、話し合い、互いに歩み寄りができる活動を増やす必要がある。そこで、2年次のホームル

ームで展開する「道徳プラス」において、より身近な題材を通し、実社会でも応用可能な道徳的判断力と道徳的実践意欲と態度の醸成を促す一助とする。

授業を行う際は、「道徳」で培った「考える力」「伝える力」「人の話を聞く力」を元に、「考えを共有し、より良い考えをまとめる」ことができるように配慮する。生徒が「歩み寄りが図れる目標の設定から外れたり、道徳的ではない発言がでてきた場合」には話し合いの軌道修正ができるような支援をするように努めた。

【学習指導案】

第〇学年〇組 「道徳」指導案		指導者	〇〇 〇〇
主題名	郷土愛	内容項目	4－(3)
ねらい	郷土を愛し大切にすることは、地元の伝統文化に触れ、先人等への尊敬と感謝の念を深め、地域の一員としての自覚を深め、郷土の自然や文化を後世に継承し発展に寄与することである。そのためにどのような行動をとるべきなのかという道徳的な判断力を育てる。		
資料名	お祭り		
展 開			
	<b>教師の指導・支援</b>	<b>予想される生徒の反応</b>	<b>備考</b>
導 入	<p>(T) 資料を読み聞かす。</p> <p>(旧住民と新住民の主張について、模式図を使いながら振り返る)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><b>【模式図の板書例】</b></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p><b>A 町</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然が豊かで住みやすい</li> <li>・伝統のお祭り</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>人間関係の希薄化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ無し</li> <li>・掃活動不参加</li> <li>・町会費が集まらない</li> </ul> </div> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>お祭り存続のために、旧住民は新住民にどのようなはたらきかけをすれば良いでしょうか？</p> </div> </div>		<b>【資料】</b>
展 開 ①	<p>(T) 「話し合い活動をするためにグループになりましょう」</p> <p>※グループにする。(人数は状況に応じて適宜)</p> <p>※話し合い活動のしやすい人数が良い。</p>		



<p>終末</p>	<p>【合意形成例1】                  伝統ある祭りはとても大切なので、その大切な思いを旧住民は新住民に理解してもらえるように積極的に関わろうとしたり、新住民の考えを柔軟に取り入れたりすることも必要。そのために新住民の考え方も尊重しながら自分たちの考えを主張すべきである。</p> <p>【合意形成例2】                  祭りの良さが分かればきつと新住民も協力的になる。そのために旧住民は祭りの意義をしっかりと新住民に伝えるべきだ。それだけではなく、新住民がどうすれば自分たちに歩み寄ってくれるのかを考えて行動すると良い。</p> <p>【合意形成例3】                  日本人はどうしても新しい人たちに対して排他的になりやすい。例えば、レクリエーションをしてみるなど、「一緒に何かをした」という経験を共有するような企画をすると良い。その時には、自分たちはもちろんどうしたら新住民に気持ちよく過ごしてもらえるかを考えてみるとよい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 10px 0;"> <p>(T)「授業で感じたこと考えたことをまとめましょう。」</p> </div> <p>※振り返りの時間を作ることで、他社の意見を許容し、自己の考えを深める時間とする。</p>	<p>生徒は【授業を振り返って】に感想を書く                  ・両方が柔軟な考えを持って理解し合えるように努力することが大切</p>	<p>授業を振り返って</p>
-----------	---	---	-----------------

(2) 授業実践の概要

話し合い時間の確保のため、授業開始5分前には、教員は板書を始め、生徒たちは4人の班を作り、教材やホワイトボードなどを準備する。授業構成は以下の通りである。

- ①授業の最初にグランドルールの説明をする。「(道徳)で定着させた「相手の話はしっかり聴く」「相手の話は否定しない」「自分の意見をきちんと相手に伝える」というグランドルールの「意見の交換可」「理由に納得した意見は正しい意見とする」「皆が納得した意見には従う」などのルールを新たに加えた。)
- ②教師が読み聞かせをした後、内容と大まかな話し合いの目標 (A 町のお祭りを存続させるために旧住民が新住民にどのような働きかけをすればよいか)を確認する。
- ③意見の相違や対立を見つけ出し「何が問題なのか」発見する。(各自で考えた問題点を班で共有し、その後、クラスで共有する。)
- ④旧住民としてお祭りを存続させることを考えるという立場にたって話し合いをするということを確認し、各班で話し合い活動を行い、各班での合意形成をする。
- ⑤各班での合意形成案を班ごとに黒板へ提示し、発表する。
- ⑥各班の案を元にクラスの合意形成をまとめる。
- ⑥「授業を振り返って」に感想を書くことで、多様な考えを認め、自己の考えを深める。

グループ活動で出てきた意見とクラスの合意形成は以下の通りである。(2クラス X 組・Y組)

【X組】

- 〔問題点〕
- ・町会費が集まらないから、お祭りが経営困難になる。
  - ・新住民と旧住民の間に壁がある→話すらできない。
  - ・古い伝統的な歴史を知らないから、お祭りに興味さえ持ってもらえない。
  - ・挨拶さえしないこと。

〔班での合意形成〕

- グループ1 ・子どもに情報を送ることで、親にも関心を持ってもらう。  
・皆が知っている情報から始めて掘り下げていき、お祭りに興味をもってもらおう。
- グループ2 ・ポスターを作る。  
・放送をする（あいさつをしましょう）
- グループ3 ・新住民に歴史を教える場を設け、知ってもらう。  
・回覧板でお祭りについて書く。
- グループ4 ・広告やポスターなどでお祭りの存在を知らせる。
- グループ5 ・チラシやポスターで宣伝する。  
・新旧住民で、交流会を開く。
- グループ6 ・新住民がやりたい、これなら参加するというお祭りを新しく作り、そこに伝統的な要素も入れる。  
・自分たちが参加したいお祭りであれば、必要なお金（町会費）も集まる。
- グループ7 ・旧住民が新住民にお祭りの良いところを広告にして配り、興味を持ってもらう。  
・みんなが楽しく参加できそうなイベントをお祭りでひらく。
- グループ8 ・子どもが興味を持つような企画を祭りに組み込む。  
・新旧住民を集めて交流会をひらく。
- グループ9 ・ホームページをつくって見てもらう。  
・お祭りの歴史や意味を教えることで、お祭りのことを知ってもらう。  
・旧住民と新住民の話す機会を作る。  
・旧住民から新住民にコミュニケーションをとる。  
・子どもの話なら耳をかたむけてくれそうだから、お祭りのことを学校などで子どもに伝え、親に話してもらう。
- グループ10 ・チラシを配って参加してもらい、お祭りの楽しさを知ってもらう。

☆【X組】の合意形成：SNS やブログなどを用いて、お祭りの歴史や意味を『情報』として発信し、お祭りについて知ってもらう。情報を発信する時は、PR もする。

また、子どもも含めた新旧住民間で、相互交流を行い、お互いが仲良くなることで、一緒にお祭りに関われるような関係をつくる。

【Y組】

[問題点] ・お金が集まらない。・人間関係が希薄。・祭りに関心がない。・団結力がない。

[班での合意形成]

- グループ1 ・回覧板でお祭りの写真や動画を紹介する。  
・街にポスターを貼りまくる。  
・SNS で呼びかける (RT-リツイート)。  
・学校や町中でお祭り存続祭り経験者から話を聞く機会をつくる。
- グループ2 ・抽選券など、ものでつるしかない。  
・TV の力を利用する。  
・SNS でRT する。  
・資金を減らす。  
・普段できない体験イベントを作る。
- グループ3 ・旧住民から新住民に親しく接する。  
・新住民でも楽しめる祭りにする。
- グループ4 ・ホームページをつくり、宣伝する。  
・フリーマーケットをして人を集める。
- グループ5 ・お祭りの規模を一時的に小さくする。  
・有名人を呼んで来て人を集める。
- グループ6 ・幅広い年代層が楽しめるようなお祭りを計画し、皆が楽しめるようにする。  
・目にとまるようなポスターを作る。  
・近所をまわって、お祭りに参加するように呼びかける。  
・各年代の交流イベントを行う。
- グループ7 ・ポスター・チラシを作る。  
・芸能人を呼び、人を集める。  
・お金持ちの市長に替える。  
・家を回ってお金を集める。  
・子どもが喜ぶ屋台を増やす。  
・キャラクターを呼び、子ども達を集める。  
・抽選会を行う。
- グループ8 ・お子様から誘いだす→親もついてくる  
[方法：ポスター・学校などから呼びかける]
- グループ9 ・新住民に祭りに参加してもらえるように、ポスターなどをつくる。  
・CMをつくる。  
・戦隊ショーなどをやって、子どもを呼ぶ。
- グループ10 ・ポスターなどでお祭りの良さを伝える。  
・清掃活動を休日都合の悪い人のために平日組と休日組に分けて、参加者に何日か参加すると、町内会で使える商品券をプレゼントする。



☆【Y組】の合意形成：学校でお祭りについて聞いたり、体験できる機会を設ける。かつ、子どもが喜ぶ企画を考えることで、子どもたちにお祭りへ興味を持ってもらい、子どもから親へお祭りの良さを伝えてもらう。また、ネットなどを用いてお祭りのPRをすること。また、多くの人が参加できる企画を考えることで、お祭りを一緒に作り、楽しむ。

### 授業実践の評価と考察

今回は、A高校において、入試の合格基準が他クラスとは異なるクラス(X組)と進学クラス(Y組)で授業を行った。初めての道徳プラスの授業ではあったが、X組、Y組ともに、話し合い活動に意欲的に取り組み、多様な考え方を認め合いながら、互いに納得する(歩み寄る)意見を得るため討議していた。特に、話し合い活動中は、自分の意見を伝え、相手の意見を聞くという双方向の活動が大変活発に行われ、互いの意見を伝え合うことで、新たな意見やより豊かな意見へと変化して行く様子がうかがわれた。

X組では、情報発信を重視する班が多く、ホームページや広告、学校などを通してお祭りの歴史や意義、楽しさなどを伝えることでお祭りを存続させるという意見が主流であった。クラスの合意形成にはあがらなかったが、グループ6のように、新住民も楽しめる新しいお祭りをつくるなどの興味深い意見も出ていた。

Y組では、SNSやTVなどを利用するという意見も多かったが、グループ6や7のように、近隣の人々を訪問し、呼びかける。グループ3のように旧住民から新住民に親しく接するなどコミュニケーションを重視する意見。さらにグループ2や3のように、普段できないイベントを作る。誰でも楽しめるお祭りを計画する。などの意見が多く見られた。

50分という限られた時間の中での話し合い活動であり、クラスの合意形成であったため、今回はX・Y組とも「情報発信」「相互交流をする・新しいお祭りを企画する」という意見が多かったものの合意に終着したが、時間的に余裕があれば、もう少し具体的な内容にも入れたように思われる。また、X組においては、授業後、「旧住民の立場だけ考えるのは不公平だから、新住民の立場でも話し合いをしたい」という意見がでたため、後日同じ教材を用いて、再度実施している。このように、話し合い活動を通して、教員が意図する以上の反応が得られることにも、今後の可能性を実感した。

なお、話し合い活動中に、歩み寄りが図れる目標の設定から意識がそれたり(新住民が無理にお祭りに参加しなければいけないのは変だ)、道徳的ではない発言-自分にされたら嫌なこと-(参加を強要する)がなされた場合には、小川による『対話促進者』である教師の軌道修正や支援が必要になる(小川哲哉(2014). 44~45頁)。

かつ、時間に制約があるため、教師は生徒の話し合い活動の時間が最大限とれるように、内容が適切かどうかを適時判断し、適切な指示をだしながら、時間管理をしっかりとしていく必要がある。そのため、今後よりいっそうの教師のスキルアップが必要になると考えられる。

今回授業を実施して感じたことは、学力などに差があっても、グランドルールをきちんと提示し、教師が適切な支援を行うことができれば様々なレベルの高校において、討議型「道徳プラス」の授業は実施可能であるということである。

また、授業後に行った生徒アンケートでは、生徒全員が討議型の道徳授業を肯定的にとらえたコメントを記している。さらに、「実際の生活においても、今回の経験を活かしたい」「今回の話し合いで考えたことを地域で提案したい」などのコメントもみられ、討議型授業が、学校生活や社会生活においても汎用性のある授業形態の一つであると感じている。

【表①】 「お祭り」実践後の生徒アンケート結果 76人 (X組39人 Y組37人)

	思う	ややそう思う	あまり思わない	思わない
①グループでの活動では、自分の考えを発言できたと思いますか。	55%	33%	9%	3%
②グループでの意見交換は、様々な意見やアイデアが出て、良かったと思いますか。	74%	24%	2%	0%
③グループでの意見交換では、互いに歩み寄りを図り、意見をまとめることができましたか。	66%	28%	6%	0%
④友達の意見は、スムーズに進めることができましたと思いますか。	72%	26%	2%	0%
⑤本日の活動は、グループ内で納得のいく話し合い活動が行えましたか。	77%	21%	2%	0%

⑥今日の授業の感想を書いてください。

X組の感想から一部抜粋]

- ・もっと道徳で話し合ってみんなの意見を聞き、たくさんのを学びたい。
- ・いろいろな意見が聞けて良かった。今後も、今回みたいな授業をうけていきたいと思いました。
- ・一人で活動するより、グループの方が色々な考え方が出てくるし、いろんな方向からとらえることができると思った。
- ・自分では思いつかない意見をたくさん聞けて良かった。様々な意見を取り入れもっと良い考えが浮かぶようにしたい。
- ・いろいろな意見が出てとても楽しかった。自分の意見を良く発言することができた。
- ・一人一人の個性が意見にでていた。積極的に取り組んだ。
- ・思ったより自分の考えをまとめることができなかつた。一人よりも大勢の方が自由な発想ができて良かった。
- ・グループでの話し合いで問題を解決するために話し合っ、解決策を導き出せて良かったです。
- ・男女が同じ班になっても、互いに意見を言えてとても良かった。
- ・班の人全員が旧住民の気持ちになれて、良い意見が出せた。
- ・自分の意見を楽しく、しっかり発言することができ、また、伝わりやすいようにすることもできた。
- ・みんなの意見を尊重できたので良かった。
- ・みんなの意見がきけて良かった。楽しくできた。大人数で話し合うことがあまりなく、良い経験になった
- ・いつもはグループ活動だとなかなか話せないけど、今日はたくさん話せて良かった。
- ・他の人の意見もたくさん聞けて良かった。
- ・それぞれの班によって個性的な意見がたくさんあって、とてもおもしろかった。
- ・グループ内で色々な意見がでて、自分が考えていることと全然違う意見や個性的な意見があふれていて良かった。
- ・あまり得意でないグループ活動の話し合いで、頑張って伝えた自分の意見を認めてもらえてとても嬉しかった。これからは他の人にははっきり意見を言えるようになりたいです。
- ・この授業を通して、人と人とのコミュニケーションはとても大切だということがわかった。
- ・人と人との関わりをつくるのは難しいことなんだと思った。

- ・旧住民と新住民のコミュニケーションを少しずつでも良いからとっていき、新住民も参加しやすいお祭りをつくって次の世代へとつなげていければ良いなあと思った。
- ・楽しかった。クラス内での色々な意見を聞けておもしろかった。課題が現実的でよかった。
- ・地域交流や情報発信は大事だなと思った。
- ・自分の住んでいる町でも関心がない人がいるかもしれないから、ポスターなどで宣伝した方が良かったと思った。
- ・実際の経験と重なる点があるので、今回のことを活かす場面ではもっと努力しようと思う。
- ・話し合うのがおもしろい。自分の町のことも考えたいと思った。
- ・祭りとかなくなるのは悲しいので、自分できることを何か探してみようと思った。
- ・なかなか古い歴史を存続するにはどうしたらいいかなんて考える機会がないので、考えられて良かったと思います。古いことを守っていくことも大切ですが、新しいことを生み出すことも大切だと思いました。
- ・X組らしい結論がでて良かったと思います。自分たちができることを地域に活かすのもいいと思いました。
- ・旧住民も新住民のどちらの意見を聞いて、どちらも幸せになれるような答えをだせればいいなと思いました。

[Y組の感想から一部抜粋]

- ・初めてクラスでこういうことをして楽しかった。またやりたい。
- ・楽しかった。また別のテーマでもやってみたいと思った。
- ・四人の意見をまとめて一つにすることは難しいが、互いに納得するところを見つけることは重要だと思った。
- ・みんなの意見はいろいろあっておもしろかった。物事を様々な側面からみるのが大事だと思った。
- ・一人で考えるだけでは考えることが少ないが、みんなで考えると幅が広がって良い。
- ・周りの人と話すことで、コミュニケーションがとれる。
- ・自分の意見を発表する場があり、人の意見をしっかり聞く場があつてよい。
- ・クラスで一つのことを考えるのは楽しかった。
- ・グループで考えをまとめることにより、よりよい意見がでて、さらにクラスで考えをまとめるともっと意見がでるのでおもしろかった。
- ・周り話し合うことでより意見が深められて楽しかった。
- ・大人数で話し合いをすることで意見がとびかい、みんなの意見が聞けてとても楽しかった。
- ・クラスで一つの意見をまとめるのはなかなかない機会、とてもおもしろかった。
- ・みんなで話し合いをし、一つの答えにたどりつけて良かったと思う。
- ・自分にはない考えがたくさん出てきて、こんな意見もあるんだと知ることができて良かった。
- ・自分の考えた意見を発表するのも楽しく、他人の意見を聞くのも楽しい。賛成だけでなく、反対意見もあってアイデアが深まっていくのが良かった。
- ・グループのみんなと意見を出し合うと、新しい考えもでてきて、どんどんつながって行くのがとても良かった。
- ・頭をとっても使った。相手を説得するのは大変だと思った。
- ・大人数で話し合いをすることで意見がとびかい、多くのアイデアが生まれ、一つにまとめることでよりよい意見になることがわかった。
- ・考えることの難しさを改めて感じた。でも、グループで一つのことを考えることはとても楽しかった。別のテーマでもやってみたい。

- ・最初は少し不安だったけど、始まると楽しかった。様々な意見があっっておもしろかった。
- ・全員で何かを良くするためにアイデアを出し合えば、たくさんでてくるなと感じた。
- ・自分にはない意見がたくさん出てきてびっくりした。いろんな意見が聞けて楽しかった。様々な意見がでて、おもしろかった。予想以上に個性的で魅力的な意見がいっぱいでておもしろかった。
- ・人の意見を聞いて、納得できることもあったし、そういうのもあったのかと改めて気づくこともできた。
- ・楽しく意見交換ができたと思う。もっとこういった授業をした方がいいと思う。
- ・どうしたら問題を解決できるのか、考えるのは難しいけど、こういう授業は大事だと思った。
- ・人間関係の希薄化は祭などの伝統行事をなくしてしまう可能性があることを知った。これからは地域の人に挨拶をしようと思った。
- ・実際に自分の地区で祭りの参加者が少ないので、今日みんなで話し合ったことをもとに呼びかけてみたい。
- ・みんなで一緒に何かをすることで問題が解決すると思った。自分たちの身近なこと(学校)でも使えると思う。

### 結語的考察—討議型の道徳授業の教育的意義—

本授業のような話し合い活動を主体とした道徳教育は、問題発見解決型の学習の一形態であり、その際に重要なのは、何が問題なのかを明確にし、自ら主体的に考えるとともに、集団の構成メンバーのそれぞれの考えを理解し、お互いに歩み寄りながら活動する点である。特に話し合いの中から生徒たちが、お互いの立場や価値観の相違を乗り越えて、新たな価値観を構成していくという行為は、18歳で選挙権を持つようになった高校生にとって有意義であると考えられる。

一方で、対話促進者にとっては、合意形成に向けて、話し合いにどこまで介入して良いのか、また、学校や地域の実態や特徴により、どこまでの議論を持って合意形成がなされたかと考えるかなど、検討すべき点も多い。さらに、1年生までの言語活動などの積み上げにより、話し合い活動そのものの経験値の差も課題となろう。

しかし、こうした問題点があるにしても、合意形成を目指す討議型の道徳授業の実践は、高校生にとっては様々な点で教育的意義があるように思う。ある生徒は「旧住民と新住民のコミュニケーションを少しずつでも良いからとっていき、新住民も参加しやすいお祭りを作って、次の世代につなげていければ良いなと思った」と振り返るものもいた。これは、現代社会が抱える「今の生活が良ければそれでいい」という、若者の結婚観や少子化の問題にも広がりを持つものであり、「自分たちの町のことも考えたいと思う」と振り返った生徒もおり、自分が社会の一員であることや周りとの協調していくことの大切さを改めて感じてくれていた。

このように合意形成を目指す討議型の道徳授業は今後改善すべき色々な問題はあるが、単なる読み物資料では得られない主体的な<学び>を行うことができるように思う。今後更なる実践的検討を加え、教育現場での定着を図りたいと考えている。ただこの種の道徳授業は、単に高校においてのみその意義が確認されるだけでなく、高校教育に接続する役目を担っている中学校の「特別の教科 道徳」においても有効なものであると思われる(渡邊満, 押谷由夫, 渡邊隆信, 小川哲哉編(2016). 109～122頁)。こうした点に関する論究も今後重要な教育課題になるであろう。

## 引用文献

- 文部科学省. 2009. 『高等学校 学習指導要領』.
- 茨城県教育委員会. 2012. 『高等学校 道徳教育指導資料 ー魅力ある「道徳」の実践を目指してー』.
- 茨城県教育委員会. 2015. 『高校生の「道徳」 ともに歩む ー今を, そして未来へー』.
- 茨城県教育委員会. 2016 a. 『高校2年生のための道徳プラス』.
- 茨城県教育委員会. 2016 b. 『道徳教育指導資料 高校2年生の道徳プラス』
- 小川哲哉. 2014. 『主体的な<学び>の理論と実践ー「自律」と「自立」を目指す教育』(青簡舎).
- 渡邊満, 押谷由夫, 渡邊隆信, 小川哲哉編. 2016. 『シリーズ「特別の教科 道徳」考える3 中学校における「特別の教科 道徳」の実践』(北大路書房).